

保健教材ニュース

4月号

4月5日号 No.2033

4月15日号 No.2034

4月25日号 No.2035

いっしょだから できることがある!

心のドクター



みんなの健康と安全を守る 保健室

衛生・生活習慣



トイレの正しい使い方

衛生・生活習慣



ダウンロード
できます

今月のほけんだより

ほけんだよりは、あっとほけんしつネット (<http://hokenshitsu.net/>) のVIP会員様メニューからダウンロードすることもできます。たより全体は「今月のたより」から、たよりの一部やイラストのみのご活用は、それぞれ下記のカテゴリーからダウンロードしてください。



“たより”
のネタ帳

- 1 歯
- 2 歯
- 3 歯
- 4 歯
- 5 歯
- 6 歯



無料イラスト
カット集

- 1 歯
- 2 歯
- 3 歯
- 4 歯
- 5 歯
- 6 歯
- 7 歯
- 8 歯
- 9 歯
- 10 歯

Inter Press

株式会社インタープレス
<http://www.inter-press.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-8-5 京橋富士ビル

TEL 03-3566-6000 FAX 03-3566-6010

みんなでいっしょ 子どもたちは何を学んだ？

文／五木田 勉

本紙では103人で行った挑戦のようすを紹介しました。それは、どのような挑戦だったのでしょうか？ また、挑戦を通して子どもたちは、どんなことを学んだのでしょうか？

103人で、どんな挑戦が行われたのか？

本紙2033号では、ギネス世界記録の挑戦のようすを紹介しました。参加した103人は、「ブレイブボード」と呼ばれる車輪がついた板に乗り、隣の人と手をつないだまま100メートル走るという記録達成にチャレンジをしました。

ブレイブボードの形状はスケートボードに似ています。しかし、スケートボードと違って、地面を足で蹴らなくても前に進む構造になっています。また、4個の車輪がついているスケートボードとは違い、ブレイブボードには車輪が2個（前後に1個ずつ）しかついていないため、バランス感覚が必要です。隣の人と手をつないだまま、103人全員がバランスを崩さずに100メートル走りきることは、かなり難しい挑戦です。

この日記録に挑戦した103人のほとんどは小学生で、中には、このイベントに参加するために、ブレイブボードに乗り始めた小学生もいました。しかも、東京周辺からだけでなく、福島県相馬市や神戸市の小学生も参加したため、当日まで全員が揃って練習を行うことができませんでした。

挑戦当日、まず練習から始まりました。103人を3つのグループに分け、30数人が横一列になって手をつなぎ、30メートルほど走るという練習が何度も行われました。ただし、走ると言ってもそれほどの速さはなく、“早歩き”くらいの速度です。

練習は、隣の人と手をつないで前に進む感触を確かめるようにして行われました。最初のうちは途中で手が離れてしまったり、転んでしまったりする小学生もいました。しかし、練習をくり返すうちに、だんだんスムーズに前進できるようになりました。

練習が3つのグループにわかれて行われたのは、本番の挑戦が横一列ではなく3列にわかれて行われるからです。本番の感覚をつかむためにも、各列のメンバーが別々に練習をしていました。

記録の挑戦は、東京ビックサイトの近くにある東京臨海広域防災公園で行われました。会場の横幅に制限があるため、挑戦は103人が横一列に並ぶ形では行われませんでした。その代わり、30数人の列を3つ作り、3列が等間隔のまま前進していきます。列の間は、ロープでつながっています（前列の端の人と、後ろの列の端の人が同じロープをにぎる）。

見事に世界記録を達成！

列ごとの練習の終了後、次に、本番と同じ形（3列が等間隔に前進する）で練習が行われました。

そして、いよいよ本番です。ギネス世界記録の認定者が、実際に何人が参加しているのかをチェック。子どもたちの間に一気に緊張感が高まります。その後、全員で大きな声を出して気合いを入れてから、挑戦がスタートしました。

3列になった103人が10メートル、20メートル、50メートルと順調に前進してきます。そしてゴールまであと10メートルほどのところで、思わず挑戦者の中から「もう少しだ!」という声が上がりました。

ついに最前列が100メートル地点にあるゴールラインを越えました。続いて2列目、そしていよいよ3列目がラインを越えました。この瞬間、見事に記録が達成しました。挑戦に参加した小学生と一緒に参加した大人が、喜びをともにしました。



記録達成を喜ぶ福島県相馬市の小学生

学んだのは社会で自分を活かすために大切なこと

この挑戦は、子どもたちにとってどのような体験だったのでしょうか?

本紙でも紹介したように、福島県相馬市から参加した子どもたちは、隣の人と手をつないで行ったチャレンジについて、次のようなことを感じたと話してくれました。

「手をつないで、隣の人力も借りてチームプレーでやれた。自分だけじゃなくて、仲間も信じられると思いました」

「手をつなぐと、みんなとつながっているような感じがしてがんばれました」

「隣の人と手をつなぐことで、みんなの気持ちがひとつになって、世界記録という大きな結果が出せたので、よかったです」

「一人一人の力も大切だけど、ほかの人の力も借りることで、みんな協力したから記録を出せたのだと思います」

しかし挑戦前は、不安も大きかったようです。

「正直なところ『成功しないかも』と思っていました。でも練習をしていくうちに、すごく一体感があって、本番の前に練習をしたときに『これは成功する』と確信しました」

「福島では、5～6人で練習をしていました。それでもあまり成功しなかったので、『ほんとうにできるかな』と思っていました。今日成功したのは、大きな声を出したり、お互いに声をかけたりして、絆を深め、気持ちを合わせたからだと思います」

このように気持ちが変わったのは、初対面にもかかわらず、すぐに親しい仲間になれたことが大きかったようです。

「今日初めて会ったのに、手をつないだ隣の人や周りの人は、ほんとうに優しく話しかけてくれて、すぐに友達になって、協力してできました。だから、ちゃんと自分の力が発揮できたのだと思います」

このような変化が生まれたのは「ひとつの目標を目指す仲間」ということが大きいのではないのでしょうか。そして、目標がはっきりしている分、各自、責任感をもって取り組んでいたようです。

「みんながんばっているのに、自分が転んでしまったらどうしよう、手を離してしまったらどうしよう。すごく緊張しました」

似た感想を、多くの小学生が話してくれました。こうした緊張感の中、小学生たちは、社会に出た後に、自らの力を発揮して、充実した人生を送る上で大切な視点を学んだのではないのでしょうか。それは次のことです。

今やっていることは、自分一人でやっているわけではない。だから、みんなのためにも、自分がやるべきことをしっかりやらなければいけない。

これは義務とは違います。“みんなのため”は“自分のため”でもあること。何よりも、その経験には大きな喜びがあることを実感したことは、きっと小学生たちにとって大きな財産になったはずです。